



“授業はごきげんようから始まった・・・”

WELL の読書会『アンのゆりかご』にゲストスピーカーとして大学事務部長の雨宮美和子さんをお招きしました。

雨宮さんは東洋英和女学院短期大学保育科の卒業生であり、村岡花子さんの授業を直接受けた最後の学生でもあります。村岡花子さんの人柄と当時の学生生活についての貴重なお話を紙面に再現します。
(2014年6月27日採録)

村岡恵理著『アンのゆりかご』
(新潮社、2011)



「こんにちは、雨宮です。私は短期大学の保育科に1967年に入りました。その時に児童文学の授業を担当していらしたのが村岡花子先生、音楽は「椰子の実」で有名な大中寅二先生でした。私は山梨育ちなので、大学に入った時、大学ってこんなに素晴らしい先生に教えてもらうのかと感激いたしました。

村岡花子先生はちょうどこの『アンのゆりかご』の口絵にでている写真、まさにこんな感じでした。これは1968年で、お亡くなりになる前ですが、お着物で先生そのものです。いつもお着物で、それはそれは怖い先生でした。まずお教室にゆっくり入って、ずうっと私たちを見て「ごきげんよう」、それから始まります。

授業でのお話としては、絵本とか小説は作家がほんとに選んだ言葉を使っているのだから、あなたたちは子どもたちを教える立場になるけれど、自分の考えで優しく言うとか、感情をこめて言うのはやめてほしい、言葉を正しく、感情豊かではなく、正しい日本語、発音できちつと言いなさい、というものでした。授業を受けた同級生も言っていますが、絵本の朗読などを聞いていると本当に聞き惚れます。感情は込めず、にこりもしないのですよ。しないのですが、翻訳やいろいろなことをなさった方なのだなということは私たち皆が感じました。

その代り、視線はすごいです。威圧的な感じ。威圧的なのですが、それはあなたたちは保育者として頑張るのですよという感じでした。最後は「ごきげんよう」で帰られるのです。

それからさっき結婚なさったご主人の話が出ましたが、私は授業のことも覚えているのですが、いちばん驚いたのは、先生があるときにおっしゃったことです。

“江戸時代に殉死という制度があって、お殿様が亡くなった時に切腹をしたり、夫が亡くなった時に後を追ったりした、なんていやな風習なんだろうと私は毛嫌いをしていた。だけど夫が亡くなった時に一緒にほんとに棺桶に入りたかった。私は殉死ということはこういうこともあるのだなと理解した。”

18歳でそれを聞いたときに私はびっくりしました。ご主人との関係もあまりお話にならなかったの。私は山梨に住んでいましたので、帰って母に「パパが死んだら、棺桶に入りたいと思う？」って聞いたら、「そうねえ。そうかもしれない」と言ったので、夫婦というのはこういうものだと思います。

それから芝恭子先生(注：本学名誉教授。元短期大学保育科教授)からも、「私も村岡先生から文学の話も聞いたけど、家族愛とか夫婦愛とかがすごく心に残っているのよ」というお手紙をいただきました。

先生の生き方というのはご本とかに載っているけど、ほんとに愛情豊かに生きていらしたのではないかと思います。」



(以下『 』は参加者からの質問です)

『村岡さんの周りの生徒は当時どう思っていたのですか?』

「同じだと思いますよ。怖いというかともかく威厳がありますから。人気取りをしようとかそういう感じはないですし、威厳がありますのでみんな真剣です。最後の教え子として尊敬していました。ただ結構休講が多くて、東洋英和はその頃六本木だったので、休講になると東銀座の歌舞伎座まで歌舞伎の一幕見を、六本木を走り抜けて見に行きました。授業が始まるまでに帰ってきたりして。東洋英和は歌舞伎好きの子が多かったので、歌舞伎同好会も作りました。ここではそういうわけにもいかず、かわいそうですね。

先生は保育科の学生である私たちに、子どもはいまわからなくてもいつか分かるときが来るので、きちんとした日本語を使いなさいと言われていました。私たちもそう思っていました。その当時の保育科は50人すべて1クラスで何をやるにもほとんど必修だったので、まとまっていた。」

『児童文学論の授業では絵本は絵と文ともに大切であると教えられています。村岡先生は文の方が主だったのですか?』

「どちらかというそうですね。好きな絵本はいっぱいあったと思いますが。

『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』などは先輩は大感激していましたね。先生はいろいろな本を紹介してくださいました。絵本ではない西洋の本も紹介してくださいました。冗談も言わず淡々と、ごきげんようと言って。」

『ときどき図書館の本に「村岡花子基金」というハンコが押してあるのは何ですか?』

「あれは村岡先生のご本の印税で買ったものです。村岡花子先生が亡くなった後、印税を延々と学院に入れてくださっていて、それで購入したものです」

(図書館注：村岡さんは本を出版されると図書館に寄贈してくださいましたので、直筆

のサインが入った本も所蔵しています)

『ドラマだと天真爛漫な感じですか?』

「若いときはそうだったのではないですか。多分子どもがお好きで、ご自分のお子さんを亡くしておられ、この本の著者のお嬢さんたちも実のお孫さんではないですよ。ご主人の倒産などもご自分が全部引き受けて乗り切ってこられた。女性は強いですよ、皆さんも頑張ってください」

『ドラマは見ますか?』

「家にテレビがないのでドラマは見ていませんし、見ようとも思いません。ドラマは脚本家のものですし、私としては先生のイメージや英和での生活で感じたものを大事にしています」

和やかな雰囲気、村岡花子さんのお話はもちろんのこと、昔の英和生も今の学生と同じだということを実感した学生もいたようです。貴重なお話をありがとうございました。図書館には村岡花子さんが編集委員をされた『東洋英和女学院 50 年史』をはじめとして、多くの学院史料を所蔵しています。今年、東洋英和女学院創立 130 周年です。ドラマをきっかけにして英和の歴史に思いをはせるのも良いのではないのでしょうか？

おすすめ CD

『花子からおはなしのおくりもの』 村岡花子朗読 Universal Music, c2014

「フランダースの犬」「小公子物語」「家なき児」など村岡さん自身が翻訳した作品も含まれています。日本語と朗読に力を入れた村岡さんの淡々とした肉声をぜひお聴きください。

(大学メディアルーム CD 90||Mu)



大学図書館は夏休み期間中に図書館システムの更新を行います。そのため OPAC からの予約、取り寄せ、マイライブラリの依頼など一部の機能を制限する期間があります。(8 月 5 日から 8 日)
また、地下 1 階の旧リフレッシュルームの工事を行いますので、8 月中は旧リフレッシュルームとグループ学習室①が利用できなくなります。ご不便をおかけしますが、どうぞご了承くださいませようお願いします。詳細は図書館ウェブサイト及び WebCampus をご覧ください。

2014 年 8 月 7 日(木)から 19 日(火)は一斉休業のため閉館します



“コピペ”ってどうしていけないの？

コピペというのはコピー&ペーストの略語。ネット上の他人の文章などをコピーして自分の文章に貼りつけて発表することを言います。なぜこれが問題になるのでしょうか。

文章、映像、コンピュータソフト、ゲームなどすべての製品はそれを作成した人の著作物といえます。作成した人には著作権があり、これは法律で守られた権利です。著作物を引用したり、使用する場合は著作権を持っている人に承諾を得る、使用料を支払うなどの手続きが必要です。よく映画館で上映前に、“ノーモア映画泥棒”というCMが流れるのも、映画館での撮影、録音は違法であるということに由来します。ただし、論文レポートなどで、先行研究を例に出して使用する場合は商業的利用ではありませんし、引用する場合にいちいち連絡を取って承諾を得るのも大変です。それで著作権法には承諾なしで使用できるルールが定められています。

違法とならないために確認すべきこと

1. レポートは他の人の意見を引用するだけではなく、自分の意見を書くことが基本です。引用は多くても半分以下に。
2. 他人の文章や画像を引用する場合は、引用した部分をカギカッコでくくり、どこから引用したのか典拠(著者、書名(論文名)、出版社、出版年、ページなど)を明示します。
3. 引用の典拠は、引用した箇所、または巻末にまとめて記載します。
4. 信頼できるソースから引用しましょう。Wikipediaからの引用は不可。

これらを守ればコピペ自体は決して違法ではありません。きちんと適用範囲で行えばよいのです。

STAP 細胞の論文でニュースでもコピペについて取り上げられています。これを機会にレポートや論文の書き方についても確認してみると良いでしょう。



待ちに待った夏休みです。いろいろ楽しい計画を立てている方もいることでしょう。〇〇文庫の100冊というキャンペーンもあるようですので、100冊とは言わなくても目標を立てて読んでも良いのでは。

ちなみに筆者は『深夜特急』(沢木耕太郎著)を読みながらバーチャル旅行を楽しんでいます。9月には元気な顔を見せてください。

(編集担当：鷺谷)